

はばプラⅡ 社会科「つかむ」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

○単元の最初は解決内容は見えないため、「活動・テーマ」の要素に係るめあてとなる。

<例>

◆「〇〇についての資料等を基に、単元の課題を立てよう。」など。

【課題意識が高まる資料】

○資料に、以下の要素が必要となる。

<例>

- ◆資料と資料、既存の知識と資料の間にずれがある。
- ◆大きさ、重さ、数字等の大小に驚きがある。
- ◆同じものや場所の変化や継続性が分かる。
- ◆学習者によって考え方の違いが出やすい。

【解決することを焦点化する工夫】

○線や矢印等を活用し、内容を関連付け補足を付け加えたり、分類・整理したりして可視化していく。

【社会科における単元の課題の型】

○習得させたい「概念等に関する知識」を基に、単元の課題は設定される。

<例>

- ◆「どのように・どのような」型
事実や手順、方法、特色を追究するとき
- ◆「なぜ・どうして」型
社会的事象の意味や理由を追究するとき
- ◆「どうすれば・どちら」型
構想（選択・判断）するとき

【予想と追究内容や方法、学習計画を明確にする手順】

○課題について予想をする。

- ①精選した資料を複数提示する。
- ②予想の根拠となる事実を問いかけたりする。
- ③予想内容を整理して板書する。



○追究内容や方法を明確にする。

- ④整理した内容を基に、明らかにしたいこと等を問いかけ、追究内容を決定させる。
- ⑤これまでの追究方法を例示したり、方法の妥当性を問いかけたりする。
- ⑥追究内容や方法を学習計画としてまとめる。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 社会科の学習における本時の位置付けが、単元の課題の設定であることを確認させる。
- 本単元の社会的事象に関する資料（写真・地図、統計や実物等）を提示し、生活経験や既存の知識を問いかける。経験や知識が少ない場合には、事前、または本時の中で体験活動等を設定する。

【めあて】

2 一人一人が、本単元の社会的事象に関する資料を基に、疑問や調べたいことを考える。

- 教科書等にある資料や教師が集め精選した資料を効果的に見せる順序やタイミングを工夫し提示する。
- 資料と既存の知識、複数の資料を比較・関連付けさせる。（発達段階によっては、学級全体で読み取る）
- 資料から考えたことを記述、発言させる。

3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。

- 資料を基に考えた疑問や調べたいことについて発言させる。
- 発言し合った内容の共通点や相違点を確認させたり、その理由を問いかけたりする。
- 板書内容を基に、キーワードを共有させる。

4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。

- 社会的事象について、共通して解決すべきことを問いかける。
- キーワードを基に、単元の課題を言葉としてまとめ、板書する。

【単元の課題】 (学級全体)

〈単元の目標に到達するための大きな問い〉

- 本時の振り返りとして、「本単元で何をしていくか」や「特に興味・関心をもったことは何か」、習得した社会的事象に関する知識や参考になった友達の見解等を記述・発言させる。

単位時間の振り返り (個人)

※発達の段階に応じて単元の課題の設定後に、「予想をし、追究内容や方法、学習計画を明確にする活動」までを行う場合もあります。

学習計画表		
単元の課題「~~~~~」		
時	調べること	方法
1	追究内容Ⅰ	教科書等
2	追究内容Ⅱ	聞き取り等
3	追究内容Ⅲ	博物館等
4	まとめる	レポート等

個別最適な学びに関する学習活動

協働的な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

<例>導入で有効なICT活用>

- 地形図、写真、3D、縮尺変更等と複数の表現で示す。（地理院地図）
- 地図と鳥瞰図を並べたり、現在と過去の地図の重ねたりする。
- 年表上の出来事をクリックして関係資料を表示する。
- AR/VRによる国内や世界の現場、歴史の世界をバーチャルに体験（Google Expeditions） など

【表現】

- 社会的事象に関する資料等の気になる点を、拡大・チェックする。
- 文章作成ソフト等で、社会的事象に関する疑問や調べたいことを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】

- 教師用端末に送信する。
- 学習過程やまとめ段階で再生することで、社会的事象に関して、どのような課題意識をもち学習を進めたのか確認できる。

【協働での意見整理】

- 大型提示装置や端末を活用し、出し合った意見の分類・整理、また、社会的事象に関するキーワードを記入する。
- 情報を何度も再生することができ、深く考えられる。
- 複数の意見・考えを可視化して共有化、焦点化できる。

【表現】

- 文章作成ソフトで、個々が考えた単元の課題の言葉を入力する。
- 教師用端末に送信する。
- 個々が考えた言葉を基に、学級の単元の課題を立てることができる。

【学習データの蓄積】

- 端末へ単元の課題や振り返りの内容を記録する。
- 次時の学習への見通しを明確にもてる。
- 自己の学びの確認ができる。

<単元を通じたICT活用の視点>
子供が、課題の解決に向け、より社会的な見方・考え方を働かせたり、教師が子供の学びに即した効果的な支援ができたりするなど、深い学びが展開されるようにすることが大切です。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

・既習事項や本時の学習に関わる社会的事象の資料を大型提示装置等で、提示する。

<例>

・子供たちの生活経験に関わるデータ等は事前に整理し、表やグラフ等を作成しておく。

・社会的事象に関して課題意識が高まる資料を大型提示装置等で提示する。

・社会的事象について着目させたい部分の焦点化を図る。

<例>

・拡大、マーキング、一部をマスク、並び替え

・教師用端末で学習状況を把握する。

・教師用端末に送信された社会的事象に関する個々の考えを大型提示装置等に一覧で表示する。

・教師用端末に送信された個々が考えた単元の課題の言葉を大型提示装置等に一覧で表示する。

・学級全員で立てた単元の課題を、大型提示装置等に表示する。

・大型提示装置等での個々の振り返りの映し出し・紹介、共有する。

はばプラⅡ 社会科「追究する」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

- 「解決すること・解決の方法（学年・校種で省略）」が含まれることが重要となる。
- <例>
- ◆「〇〇に関する資料等を調べ、～はどのようにしているのか、明らかにしよう。」
- ◆「調べたことの共通点を話し合い、～社会的事象～の特色をはっきりさせよう。」 等

【追究における資料】

- 社会科は資料が命とも言われる。解決につながる資料を精選して提示するとともに、その読み取り方の指導も同時に行う。

【情報の整理】

- 資料の丸写しを避けるため、事実をキーワードで示させたり、考えを対応させたりする。
- ワークシートを活用する場合は、枠組み等を明確にしたものを提示する。

【考えたことを話し合う】

- 児童生徒の発言について問い返したり、新たな側面や立場等から考えられる視点を提示したりする。

【「まとめ」の内容】

- 社会的事象の特色や意味について整理した「**具体的な事実に関する知識**」を学級全体で共有する。

【「振り返り」について】

- 各单位時間に捉えた「具体的な事実に関する知識」や、解決に有効であったことを自分の言葉で表現させ、多様な解決方法を身に付けられるようにする。
- 視点は、学習内容により下記の例を組み合わせるなどして示す。
- <例>
- ◆「分かったことは何か」
- ◆「どのように解決したか」
- ◆「次に調べてみたいこと」 等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元の課題や学習計画、前時までの学習内容を確認させる。
- 単元の課題について、予想したことを確認させる。
- 解決の方法（使用する資料や学習活動等）を問いかける。

【めあて】

2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。

- 追究する社会的事象に関する資料等（教科書、資料集等）から、解決に必要な情報を集めさせる。
- 集めた情報から、解決に必要な事実を読み取らせたり、その意味や役割を考えさせたりしたことをノート等に整理させる。
- 一人一人が集め、読み取った情報をペアやグループで補完・修正させる。

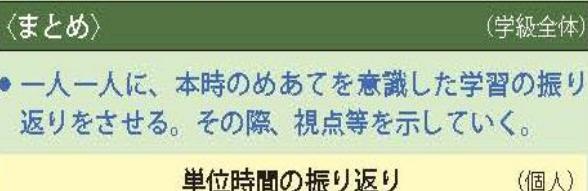
3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。

- 情報を共有させるとともに、社会的事象の特色や意味について、「**情報＝事実（根拠）**」と「**社会的事象の特色や意味＝考え**」を区別して交流させる。
- 出合った意見について、本時の解決とのつながりを小集団や学級全体で話し合わせる。
- 話し合いの内容を線や矢印を活用して構造的に板書する。



4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

- 考察した内容について、「**つまり**」や「**～を合わせると**」等の言葉かけをし、児童生徒の発言を基に、まとめの言葉を板書する。



個別最適な学びに関する学習活動

協働的な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】

- 電子ファイルにある前時までの学習内容・振り返りを確認する。
- 学習状況の把握や定着、本時、解決すべきことについての見通しをもてる。

<留意事項>

- 初歩の段階では、サイトを指定する。
- AND・OR検索を活用させる。
- 出典元を記録させる。

【調査活動】

- インターネットで情報を収集する。
- メール等で聞き取り・質問をする。
- 必要な情報を主体的に収集・判断する力を身に付けられる。
- 電子ファイルへ記録・保存する。
- アプリを活用し、解決に必要な情報を記録、加工し整理できる。

<デジタル・アーカイブの活用>

- 公的な図書館、博物館、資料館等が所有する展示品や歴史資料を参考にさせる。など（文化庁 文化遺産オンライン）（国立博物館所蔵品統合検索システム:Colbase）

【調査活動（現場学習）】【学校の壁を越えた学習】

- 端末の写真機能を使い記録する。
- 端末の録画機能を使い映像で記録する。
- オンラインで聞き取り・見学をする。
- 保存情報から新たな気付きへつなげたり、必要な情報を主体的に収集・判断する力を身に付けられる。
- 調査対象者への質問の時間を確保できる。
- 空間を超えた直接的な調査ができる。

【表現・制作】

- レポート形式で動画を撮影をする。
- 社会的事象に対する多様な気付きを表現する力を身に付けられる。

【協働での意見整理】

- 社会的事象について観察・調査した画像等を基に、課題解決への話し合いをする。
- 端末を活用し、グループ内の意見の書き込みをする。
- 情報を何度も再生してすることができ、深く考えられる。
- 複数の解決につながる社会的事象や意見・考えを視覚的に共有し、生かすことができる。

【協働製作】

- 社会的事象に関する資料の加工をする。
- 学習してきた事象の関連を視覚的に捉え、理解を深められる。

【思考を深める学習】

- 【協働での意見整理】【協働学習】
- 端末から社会的事象に関して個々が考えたまとめの言葉を指導者に送信する。
- 一人一人の考えを共有できるとともに、多くの児童生徒の言葉を基に、学級としてのまとめをつくることできる。

【学習データの蓄積】

- 端末へまとめや振り返りを記録する。
- 自己の学びの確認ができる。
- 振り返りにおける他者の様々な学習に対する認識を捉えられる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

- フラッシュ型教材等を活用し前時の学習内容を確認させる。

- 大型提示装置等で学習計画や、本時の学習に関連する社会的事象の資料を提示する。

- 着目させたい社会的事象に関する資料や情報を大型提示装置で提示し、共有化・焦点化を図る。

<例>

- 拡大、マーキング
- ウェブサイトの紹介
- NHK学校放送番組・動画クリップの紹介（視聴時間の確保）

<例>

- 色分け マーキング
- 矢印を引く 線で結ぶ 分類する 等

- 大型提示装置等を活用し、子供の意見・考えの根拠となる社会的事象に関する資料を表示する。

- 大型提示装置等で個々のまとめの言葉を映し出す。

- 学級としてのまとめを大型提示装置等に表示する。

- 大型提示装置等で個々の振り返りを紹介・共有する。

はばプラⅡ 社会科「まとめる」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

○まとめ方など結論の整理の仕方を問いかける。
 <例>
 ◆「○○をして(使って)調べてきたことを結び付け、単元の課題の結論(答え)をまとめよう。」

【社会的事象を多面的・多角的に捉えるための図等での整理】

○児童生徒の実態、学習内容や活動に適した枠組みや表し方等のモデルを提示する。
 <例>
 ◆ベン図
 ◆関係図(ピラミッド・クラゲチャート)
 ◆くま手・フィッシュボーン図 等
 ※「まとめる」過程のみの使用とは限らない。
 ※総合的な学習の時間「考えるための技法」を参照。
 P162

【話し合う際】

○ホワイトボードやプレゼンテーション(ICTの活用)、ワークシート等、児童生徒の実態や学習内容に適した方法で可視化し伝えさせる。
【話す側の視点】

【単元全体の振り返り】

○「概念等に関する知識」だけでなく、視点を示して、社会的事象のよさや価値を判断したり、自分との関わりとして考えさせたりする。
 <例>
 ◆「社会的事象について何を学んだか」
 ◆「どのように学んだか」
 ◆「社会生活でどのように生かすか(社会に参画する態度)」等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元の課題や学習計画等を確認させる。
- 社会科の学習における本時の位置付けが、単元の結論を導く時間であることを確認させる。
- 各単位時間で解決してきたことを問いかける。

【めあて】

2 一人一人が、学習してきたことを基に単元の課題に対する結論を考える。

- 習得してきた「具体的な事実に関する知識」等の共通点や関係性を整理させる。
- 整理したことを基に、単元の課題に対する結論を表現させる。その際、文型や前時までの学習で共有したキーワード等も提示する。
- 一人一人が表現した単元の課題に対する結論の根拠を机間指導しながら問いかける。

3 学級全体で、単元の課題に対する結論を話し合う。

- 根拠を明確にししながら、一人一人が考えた結論を伝え合わせる。
- 伝え合った結論や根拠の妥当性、共通点や相違点を考えさせる。**【聞く側の視点】**

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(単元全体のまとめ・振り返りをする。)

- 単元の課題の結論について話し合ったことを基に、「分かったこと」「気付いたこと」を問いかける。
- 児童生徒の発言(結論や根拠等)を板書等で整理し、単元全体のまとめ(概念等に関する知識)を導く。

<単元のまとめ>
 社会的事象に関する**概念等に関する知識**の習得

- 単元全体の学習を通しての振り返りをさせる。

単元全体の振り返り (個人)

- 一人一人が振り返りをした内容を共有させる。
- 単元の課題を協働的に解決できたことや、多面的・多角的に考えられたこと、また、自分と社会との関わりについて考えられたこと等を称賛する。(学びの価値付け)

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】
 ○電子ファイルにある本単元の学習内容・振り返りを確認する。
 →学習状況の把握や定着、本時のまとめについての見通しをもてる。

【思考を深める学習】
 ○電子ファイルから学習の記録を呼出す。(単元の学びの蓄積)
 ○端末で社会的事象を整理するとともに、課題に対する結論を記録する。
 →アプリを活用し、単位時間ごとに解決し、導き出した具体的な知識や情報を加工し、整理できる。

【思考を深める学習】
【協働での意見整理】**【協働学習】**
 ○端末から個々が考えた単元の課題に対する結論を指導者に送信する。
 ○自分の考えた単元の課題に対する結論について、プレゼンテーションソフト等を使用した伝え合う。「○○の特色や意味などをまとめ、紹介する」など
 →一人一人の考えが共有できるとともに、多くの児童生徒の言葉を基に、単元の課題に対する結論を再構成することができる。

【学習データの蓄積】
 ○端末へ単元全体のまとめや振り返りを記録する。
 →単元全体を通しての自己の学びの確認ができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

・大型提示装置等で学習計画等を提示する。

・フラッシュ型教材を活用し、単元の学習で追究し明らかにしてきた内容の確認させる。

・一人一人の児童生徒が、単元の結論を整理するための図等を大型提示装置等で提示、また、教師用端末から送信する。

・教師用端末で学習状況を把握する。

・大型提示装置等を活用し、子供の意見・考えの根拠となる社会的事象に関する資料を表示する。

<例>
 色分け マーキング
 矢印を引く 線で結ぶ
 分類する 等

・教師用端末に送信された、一人一人が考えた単元全体のまとめの言葉を大型提示装置等に提示し、整理する。

・学級の単元全体のまとめの言葉を大型提示装置等に表示する。

・大型提示装置等で、個々の振り返りを紹介・共有する。

はばプラⅡ 社会科「まとめる」過程【構想】の基本的な流れ

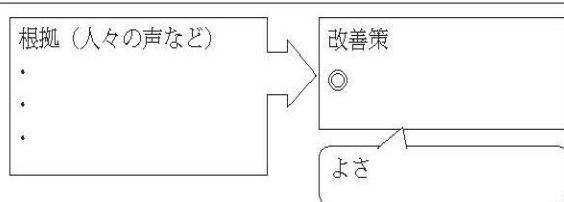
学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

○対象や目的を意識して、めあてを設定する。
 <例>
 ◆【自分と社会との関わり方】
 「〜〜のために、〇〇を考えよう。」
 ◆【社会に対しての改善策】
 「〜〜に向けて、〇〇を提案しよう。」
 ※複数時間で実施する場合は、「単元の課題2」として設定する場合もある。

【根拠を明確にさせる際】

○学習してきた内容を想起できる資料やキーワード、問題に直面している人々の声や根拠を記述する学習プリントを提示する。
 <例>



【話し合う際】

○ネームマグネットを用いたり、付箋紙を操作させたりするなどして、意見や立場を可視化して伝え合わせる。
 ○視点には次のようなものがある。
 <例>
 ◆様々な立場 ◆妥当性 (実現可能性)
 ◆順位性 ◆貢献度
 ◆効率と公正 (中学校) 等

【改善策について】

○提案する場合、可能であれば実際に関わりのある人々から、実現の可能性や妥当性等の評価を受けられるようにする。

【本時のまとめ】

○社会との関わり方や改善策について話し合ったことを通して、大切だと思ったことや気付いたことを学級全体で共有する。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 本単元で解決してきた単元の課題の結論を問いかける。
- 学習してきた社会的事象が抱える問題に関する資料等を提示し、それが続いた際の社会について予測させる。
- 「自分にできること」「これから大切なこと」「優先すべきこと」等を問いかける。

【めあて】

2 一人一人が、社会との関わり方や改善策を考える。

- | | |
|---|--|
| 【自分と社会との関わり方】
●これまでの自分の生活の在り方や習慣を問いかける。
●社会との関わり方とその根拠をセットにして考えさせる。
※個人 | 【社会に対しての改善策】
●改善策のみでなく、提案する相手を明確に設定させる。
●社会に対しての改善策とその根拠をセットにして考えさせる。
※グループや学級全体 |
|---|--|

3 学級全体で、社会との関わり方や改善策を話し合う。

- 根拠を明確にしなが、社会との関わり方や改善策を伝え合わせる。
- 伝え合った社会との関わり方や改善策と根拠について、様々な視点で考えさせる。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

《学級やグループの意見や立場を決めたり、提案としてまとめたりする際は、ここで決める!》

- 社会との関わり方や改善策について話し合ったことを問いかける。

【まとめ】 (学級全体)

- 最終的な自分の意見や立場を再決定させるとともに、その理由を表現させる。
- 「社会的事象について何を学んだか」「どのように学んだか」「社会生活で学びをどのように生かすか(社会参画する態度)」等の視点に基づいて、単元全体の振り返りをさせる。

単位時間の振り返り (個人)

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【思考を深める学習】
 ○端末で考えと根拠を整理する。
 →アプリを活用し、情報を加工し、社会との関わり方や改善策を整理できる。

【表現・制作】
 ○端末で改善策案についてのプレゼン資料等を作成する。
 →根拠や事象の関連を明確にできるとともに、表現力の育成につなげられる。

【表現】
 ○個々の端末等から、各プレゼンなどに対しての自己の立場や考えを指導者に送信する。
 →思考力・判断力・表現力の育成につなげられる。

【表現】(個が最終決定する場合)
 ○個々の端末から、最終的な自己の立場や考えを再決定し、指導者に送信する。
 →思考力・判断力・表現力の育成につなげられる。

【学習データの蓄積】
 ○端末へまとめや振り返りを記録する。
 →自己の学びの確認ができる。

【思考を深める学習】
【協働での意見整理】
 ○端末を用いて、グループなどで考えと根拠を整理する。
 →一人一人の考えが共有できるとともに、多くの考えを基に、社会に対しての改善策を考えることができる。

【協働制作】
 ○端末で改善策案についてのプレゼン資料等を作成する。
 →根拠や社会的事象の関連を明確にし、思考力の育成につなげられる。

【協働学習】
 ○社会との関わり方や改善策について、プレゼンテーションソフト等を使用し、伝え合う。
 →表現力の育成につなげられる。
 →社会的事象が抱える問題を多面的・多角的に考えるられる。

【協働学習】(グループ等で最終決定する場合)
 ○社会との関わり方や改善策を、再決定し、指導者に送信する。
 →思考力・判断力・表現力の育成につなげられる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

・単元の課題の結論を大型提示装置等で提示する。

・社会的事象が抱える問題に関連する資料を大型提示装置等で提示する。

・自分と社会の関わり方に関するデータや資料を、大型提示装置等で提示する。

・一人一人の児童生徒が、社会との関わり方や改善策を整理するための学習プリント等を大型提示装置等で提示、また、教師用端末から送信する。

・教師用端末で学習状況を把握する。

・大型提示装置等で、個々の立場、意見や考えの順位性、貢献度等を表示する。

・大型提示装置等で、話し合いを通して最終的にまとめられた内容を表示する。

※実際に関わりのある人から、子供たちの提案や考えについて評価を受ける場合は、端末等を使用し、提示する。(アンケート機能による社会参画への意欲の涵養)